

日本現象学会／レヴィナス協会／京都大学大学院文学研究科宗教学専修共催
国際シンポジウム

個と普遍 エマニュエル・レヴィナスと極東の思考

多文化時代における他者との共生－日本哲学とフランス哲学の対話

日時・場所

2019年11月16日（土）・17日（日） 11:00-18:00

早稲田大学戸山キャンパス 33号館第一会議室

<https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>

2019年11月30日（土）・12月1日（日）

京都大学吉田キャンパス文学部校舎第三講義室

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/

入場無料・登録不要

使用言語：フランス語、英語、日本語

（＊日本語の翻訳原稿が配布されます。必要な場合には通訳がつきます）

11月16日（土：早稲田） テーマ「レヴィナスと伝統的なもの」

開会の辞 藤本一勇（早稲田大学）

11h00-11h50

佐藤 香織（神奈川大学）

レヴィナスにおける〈われわれ〉の存在論（仏語）

L'ontologie de « nous » chez Levinas

12h00-12h50

平岡 紘（東京大学）

音と記号——レヴィナスにおける理性的思考についての一考察（仏語）

Le son et le signe : une réflexion sur la pensée raisonnable chez Levinas

15h00-15h50

フローラ・バスティアーニ（トゥルーズ大学）

倫理的ケアの関係はありうるのか：レヴィナスとともにケアを考える

Peut-il y avoir une relation de soin éthique ? Penser le soin avec E. Levinas

16h00-16h50

渡名喜 庸哲（慶應義塾大学）

レヴィナスにおける〈東方〉についての極端な思考：バトラーの批判に対して（仏語）
Levinas et une pensée extrême sur l'Orient

17h00-17h50

フランソワ＝ダヴィッド・セバー（パリ西大学）

法、愛、現象学：リオタールとマリオンのあいだのレヴィナス（仏語）
La loi, l'amour, la phénoménologie : Levinas entre Lyotard et Marion

11月17日（日：早稲田） テーマ「レヴィナスと極東の思考」

11h00-11h50

馬場 智一（長野県立大学）

東方イスラエル師範学校校長としてのレヴィナスと伝統（仏語）
Levinas directeur de l'ENIO et la tradition

12h00-12h50

ハノック・ベン＝パジ（イスラエル・バル＝イラン大学）

東西のあいだの現代ユダヤ哲学 マルティン・ブーバーとエマニュエル・レヴィナス（英語）
Contemporary Jewish Philosophy between East and West. Martin Buber and Emmanuel Levinas

15h00-15h50

キム・ヒョンジュン（パリ西大学）

孟子と顔の倫理：レヴィナスの倫理から孟子思想を読む（仏語）
Mencius et l'éthique du visage : lecture de la pensée de Mencius à partir de l'éthique de Levinas

16h00-16h50

レア・カルマンソン（米国・ドレーク大学）

内面性とは何か：レヴィナスとアジア思想における超越と内的体験（英語）
What is Interiority? Transcendence and Inner Experience in Levinas and Asian Thought

17h00-17h50

合田 正人（明治大学）

〈無限〉の発明と日本哲学の〈始まり〉——清沢満之とエマニュエル・レヴィナスを手掛かりに（仏語）
Invention de l'"Infini" et les "beginnings" de la philosophie japonaise. A partir de Manshi Kiyozawa/Emmanuel Levinas

11 月 30 日（土：京都）

テーマ「個と普遍」①

11h00-11h50

クリスチアン・レスナー（オーストリア・リンツ大学）

対話の差異の弁証論——対話の哲学と対話するレヴィナス（仏語）

Dialectique de la différence dialogique: Levinas en dialogue avec la philosophie du dialogue

12h00-12h50

平石 晃樹（金沢大学）

感受性と個別性——『存在するとは別の仕方』における享受の概念をめぐって（仏語）

Sensibilité et singularité: Autour du concept de jouissance dans Autrement qu'être

テーマ「レヴィナスと医療の現場」

15h00-15h50

小手川 正二郎（國學院大学）

出生主義と反出生主義を越えて（仏語）

Levinas contre l'anti-natalisme

16h00-16h50

村上 靖彦（大阪大学）

住処の破壊としての児童虐待（仏語）

L'abus des enfants en tant que destruction de la demeure

17h00-17h50

ジャン＝フランソワ・レイ（アルトワ大学）

「内臓の震えのように」：助けとしての医学、能力としての医学

"Comme un frémissement d'entrailles" (la médecine comme recours et comme compétence)

12 月 1 日（日：京都）テーマ「個と普遍」②

11h00-11h50 樋口 雄哉（同志社大学）

ヴァールの下降的超越とレヴィナス

La transdescendance wahlienne et Levinas

12h00-12h50 長坂 真澄（早稲田大学）

レヴィナスと「記憶不可能な過去」 カントおよび後期シェリングを迂回して

Levinas et « le passé immémorial » – Une étude par le biais de Kant et le dernier Schelling –

15h00-15h50 藤岡 俊博（滋賀大学）

利己愛から利益へ レヴィナスとジャンセニスム

De l'amour propre à l'intérêt -- Levinas et le jansénisme

16h00-16h50 杉村 靖彦（京都大学）

質料的現象学の限界における「社会存在」の重量—1930年代のレヴィナスと田辺

Le Poids de "l'être-social" aux limites de la phénoménologie hylétique– Lévinas et Tanabe dans les années 1930 –

17h00-17h50 ジャン＝ミシェル・サランスキ（パリ西大学）

レヴィナスと「非存在論的な突破口」

Levinas et la "percée anontologique"

閉会の辞 杉村 靖彦（京都大学）